

## 最優秀賞

日本放送協会横浜放送局長賞

### 高齢者の生活を守るために

秦野市立鶴巻中学校

二年 後藤 紗也

最近、高齢者による交通事故のニュースを度々目にします。それに合わせて、運転免許自主返納という言葉も聞くようになりました。事故を減らすためには、運転をしないことが一番だと思いますが、高齢者にとつて免許を返納することは簡単ではありません。

実際、私の祖父は八十才を過ぎて運転をしています。もちろん私たち家族は心配をします。しかし、免許を返納して欲しいという話は、なかなか切り出せません。なぜなら、祖父の家は高台にあり、近くにコンビニエンスストア一つありません。また、バス停も坂をずっと下った所まで行かないとありません。何より一番楽しみにしている畑仕事には車を使わなくては行けません。祖父と同居している叔母は、祖父が運転をしなくなったら、認知症に

なってしまうのではないかとという心配があるようです。インターネットでの調べでも、運転をしないことで、記憶力や判断力が欠け、運転をやめた後に、認知症が突然進んでしまったという事例があるということがわかりました。祖父は最近、免許を更新し、あと三年乗れると喜んでいますが。祖母もまた、車が無くなったら、生活ができないと思っています。近くに住んでいれば、父や母が車を出して買い物の手伝いや送迎ができますが、遠く離れているため、それをしてあげることができません。このような状況で、私たちは、簡単に運転をやめて欲しいとは言えないのです。しかし、実際問題、高齢者による交通事故は後を絶たないのです。では、どうしたらよいのでしょうか。

祖父を見てまず思ったことは、八十才も過ぎているのに、免許証の有効期間が三年もあるということでした。私は祖父に、半年に一回くらいのペースで会いますが、その度、加齢による身体の変化を感じるがあります。高齢者にとっての三年は、長すぎます。三年の間で衰えがかなり進む人もいるだろうと考えられます。有効期間をもっと短かくし、細めにテストを行うべきだと思います。

そして一番大事なことは、車がなくても生活ができる環境を作ることです。免許を返納すると「運転経歴証明書」がもらえます。その証明書を提示することで、バス、鉄道が半額、または無料になったり、タクシー料金が割引になったり、スーパーマーケットで格安で配送ができたり、様々な施設が割引になったりします。しかし、これは一部の自治体によるもので、全国ではありません。ですから、車がなくても、快適に生活できるように、その

地区に合った補助を考えるべきです。祖父が住んでいる市では、バスや電車の割引がありませんが、そのバスや電車に乗るまでの道のりが困難で利用できないのです。玄関の近くから目的地まで行ける福祉バスやタクシーなどがあればいいのと思います。実際にそういうことを行っている地域もあるようなので、不可能だとは思えません。全国の福祉サービスを調べてみると、様々な取り組みを見つけることができました。その地域の高齢者の声を聞いて、何が必要なのか知ることが大事だと思います。生活の不安や不自由さが無くなれば、無理をして運転する必要がなくなります。また、公共のサービスを利用すれば、家族以外の人とコミュニケーションをとる機会が多くなり、認知症予防にもつながると思います。

高齢者の交通事故を減らすためには、国や自治体の協力が必要です。免許証を返納した後も、不便なく生活できる環境を作って欲しいです。そして私は、次に祖父に会った時、運転についての話題を切り出してみようと思います。